

KARTE カルテ Q & A

体にポツポツとした小さな湿疹ができて、
だんだん広がっていく…。暑くなって蒸れや
すくなると増えやすい「水いぼ」は、子ども
を中心に、プールなどでの接触でうつる感染
症だ。どう対策すればいいのか、専門医に特
徴や感染経路、治療法を聞いた。

水いぼ

水いぼは、正式には「伝染性軟属腫」といい、ウイルスが皮膚に感染して起こる病気です。5、6歳をピークに子どもに多いですが、成人でもまれにうつります。1〜5mmほどの、表面が水つぽく見える、肌色〜淡紅色の発疹です。プールなどで皮膚が触れた

り、タオルやビート板を介したりして感染します。放置しても、半年〜2年ほどで自然に免疫ができて治りますが、それまでに数が増えたり、周囲が湿疹になってかゆくなったり、かき壊して「とびひ」になることもあるため、見つけたら皮膚科を受診しま

接触で感染、増える前に受診を

そのほかに液体窒素による凍結療法、ヨクイニンの内服、硝酸銀ペーストや昨年9月に保険適応となったカンタリシンの外用治療などがあります。ただし数週間〜数カ月もの潜伏期があるので、いずれの治療も1回で治るわけではなく

繰り返し行う必要がありません。時間がかかっても自然治癒するので、必ずしも取る必要はありませんが、感染を広げたり湿疹を悪化させたりすることもあるので、数が少ないうちに取るべきという意見もあります。治療するかどうかは、症状や数、本人の身体

的・精神的負担も考えつつ、医師と相談して決めましょう。日本皮膚科学会は、学校を休む必要はなく、プールの水ではうつらないので入っても構いませんが、タオルや浮輪、ビート板などの共用は控えるよう勧めています。感染予防

には、プール後は肌をきれいに洗う▽皮膚のバリアー機能が低下するとうつりやすいので普段から保湿などのスキンケアや湿疹を治療しておくことが重要です。(兵庫県医師会、植田透子〓神戸市東灘区、とうこ皮膚科院長)

◇第1、3、4日曜に掲載

◇第1、3、4日曜に掲載